

電機・情報ユニオンの風を起こそう 「全国ビラ」を配布

東芝MC大船で、リコーで、みなとみらいで

神奈川支部

神奈川支部は6月17日(月)7時30分から8時45分、東芝マイクロエレクトロニクスセンター大船分室の門前で、リストラ反撃「全国ビラ」の配布行動を行いました。行動参加者は「ご覧ください」「お読みください」「お仕事、ご苦労様です」など、元

気よく声かけし、約400枚を手渡しました。

門前では、私たちの宣伝行動。

一方、会社の構内では、電機連合が推薦する参議院選挙候補者名のたて看板をかけての宣伝が行われていました。

私たちの「企業ぐるみ選挙は違反です」の声出と、東芝明るい会メンバーの抗議で、たて看板が門前から見えないうちに移動されました。

他の職場では、同様なことが行われていないでしょうか。企業ぐるみ選挙に対する監視と批判が必要です。



構内では、企業ぐるみ選挙



6月17日(月)東芝MC大船分室

神奈川支部は6月18日(火)7時30分から8時45分、リコー新横浜事業所の社前で、リストラ反撃「全国ビラ」の配布行動を行い、220枚を配布しました。



6月18日(火)リコー新横浜事魚所

神奈川支部は6月21日(金)8時から9時、日立や富士通などのソフト労働者が通動するみなとみらいで、リストラ反撃「全国ビラ」の配布行動を行い、133枚を配布しました。



6月21日(金)みなとみらい

日立製作所水戸工場 3名で 255枚

茨城支部

6月17日(月)茨城支部とOBで午後5時15分から日立製作所水戸工場の門で、リストラ反撃「ユニオン全国ビラ」350枚を撒きました。

当日はユニオン会員2人、日製OB1人の3人で35分間で撒きまりました。

水戸工場は車両やエレベーターを生産しており、社会インフラの名のもと仕事は忙しいと聞いています。

門から帰宅する人には若い男女も多く、のく割の労働者はビラを受け取ってくれました。「くろうさまで」と声をかけて受け取ってくれる人も何人もいました。



労働総研ニュースに、米田委員長の「**電機・情報ユニオンの挑戦**」が掲載されました。電機・情報ユニオンの役割が分かり易く書かれていますので、ご一読ください。

労働総研 ニュース

No.278

2013年5月号

発行 労働運動総合研究所(略称:労働総研) <http://www.yuiyuidori.net/soken/>
〒102-0083 東京都千代田区平河町1-9-1 メゾン平河町501
☎(03)3230-0441 Fax(03)3230-0442 Eメール rodo-soken@nifty.com

電機・情報ユニオンの挑戦

米田 徳治

いま、電機・情報産業のリストラは13万をはるかに超えて16万人を突破している。リストラ対象の中心が正社員であり、私たち電機・情報ユニオンに加入してくる労働者は働き盛りの40代が多い。東日本大震災、福島原発事故の実体験を経て、電機・情報労働者も自分の意思を言い始めている。組合員の加入が一人二人でなく、集団化しているのも特徴である。

全国、単一産業別労働組合として2011年9月に結成し、新たな産業別労働組合運動・活動の模索を始めている。

リストラ策は名だたる電機・情報産業の大企業である。結成前後からパナソニックの労働相談から、2012年1月26日のNECの1万人リストラ、東芝携帯事業の富士通への譲渡にかかわって発生した企業閉鎖をともなう東芝モバイルコミュニケーションズプログラクツ労働者からの相談、一人から二人、三人、六人と学習会を繰り返しながら労働者を組織し、受けた我々の側も弁護士の配置、運動を通じ広がりを見せる。東芝との団体交渉を見越しながらの作戦計画の意思統一。さらに、OKI、ローム、NEC本社との接触が親く。大企業との本格的な団体交渉へと突き進んでいる。1960年、70年代に活動した活動家集団がどんどん定年を迫え、職場にはそれまでの仲間作りも困難になっている最中に、40代の働き盛りの世代が駆け込んでくれるか。新たな挑戦も始まっている。

団体交渉そのものも、研究と模索のしどころである。大企業職場の中に労働組合運動・活動を根付かせることができるのか。各企業の経営戦略の分析にとグローバル企業との違い、国連グローバルコンパクトの履行を求めて団交は続く。さらに、OECDガイドライン、ISO26000、ラギーレポートの履行を求める企業戦略を攻め立てる。四つに組んだ団体交渉も新たな理論構築しながらの運動である。資本の側も既存の労働組合との違いを見せ付けられる場面が何回も遭遇する。双方にとって、合意形成をどう導き出すのか。電機・情報ユニオンの挑戦が始まっている。

産業別労働組合の春闘、2年目にはいった。電機・情報業界との接触も始まっている。昨年とは様変わりである。電機・情報ユニオン、労働組合との折衝の必要性が徐々にであるが、業界団体内で検討が始まっていることを実感する今年の春闘の取り組みである。

昨年、久しぶりに全労連大会に参加した。小田川全労連事務局長との懇談もあり、全労連の議案に「電機リストラ」の闘いの方針が提起され、議論も行われた。産業別労働組合としての春闘。結成により12春闘ではじめて電機業界への要請行動を組んだ。13春闘では電機・情報ユニオンと電機6業界団体との要請行動が2月20日行われた。電機業界と実質的な話し合いが行われ、職場から集めた春闘要求がじかに持ち込まれている。業界団体は

「今まで、労働団体との接触、迫り入れることはなかったが、みなさん方の要請内容は関係部署に回して対応させていただく」と回答している。産業別労働組合の存在を示した一幕であった。

(まいた とくじ・会員・電機・情報ユニオン中央執行委員長)

電機・情報ユニオンの挑戦……………米田 徳治	1
日本銀行の「量的・質的緩和」とアベノミクス……………河村 健吉	2
研究部会報告ほか……………	8